

所属・職位	医学部医学科微生物学講座・教授	
氏名	西園 晃 (Nishizono Akira)	
取得学位	医学博士、大分医科大学、1989年3月	
SDGs目標	 	
研究分野	ウイルス学、感染症学、ワクチン学、渡航医学	
研究キーワード	狂犬病、新興・再興感染症、渡航医学、熱帯医学、ワクチン	
研究内容	<p>新興・再興ウイルス感染症の病態解明、なかでも狂犬病ウイルス感染の発症病理機構の解明に力を注いでいる。狂犬病は既に本邦で最後の報告がなされてから50年以上が経過し、我が国は世界でも数少ない狂犬病の清浄国となっている。しかしながら昨今の疾病のグローバル化に伴い、狂犬病は再び我が国において再興する可能性のあるre-emergingウイルス感染性疾患として認識されている。国内にある大学医学部において狂犬病研究を行う唯一の講座としてその独自性を生かし、未だに世界中で多くの犠牲者のいる狂犬病について、ウイルス学的側面からばかりでなく、疫学的重要性さらには予防・治療へ向けた臨床的側面までも包含した総合的研究を行い、この疾病の重要性を次の世代にも絶やすことなく継承することを使命と考えている。</p> <p>狂犬病以外にも新型コロナウイルス、重症熱性血小板減少症候群ウイルスなどの新興ウイルス感染症について、その感染病態をグローバル（グローバル&ローカル）に捉えるため、フィールドを中心としたウイルス感染症に関わる研究と、それら病原微生物が引き起こす感染病態の分子的基盤や免疫応答についての研究をその中心に据えて日々研究活動に励んでいる。</p> <p>※関連リンク：https://www.med.oita-u.ac.jp/biseibut/ https://www.oita-glocal.jp/index.html https://japohr.blogspot.com/</p>	
研究業績・アピールポイント	<p>○受賞：2021年日本熱帯医学会賞、2008年日本ワックスマン財団賞、1992年日本肝臓学会研究奨励賞</p> <p>○プロジェクト：AMEDとJICAによるSATREPS（地球規模課題対応国際科学技術協カプロジェクト）「フィリピンにおける狂犬病排除に向けたワンヘルス・アプローチ予防・治療ネットワークモデル構築」研究代表として、ワンヘルスの視点から独自に開発した狂犬病抗原・抗体迅速診断テストを駆使し、ヒトと動物の両面からの狂犬病制圧に力を注いでいる。</p> <p>○学会活動：日米医学協力研究ウイルス性疾患部会長。日本ウイルス学会、日本感染症学会日本渡航医学会、日本熱帯医学会など理事、評議員</p> <p>○行政・社会活動：大分県内各種感染症関係委員・専門部会委員（感染症専門部会、新型コロナウイルス、新型インフルエンザ、母子保健部会）</p> <p>○その他：海外渡航時に必要なワクチン接種を専門とする渡航医学の臨床</p> <p>○論文：関係論文総数 155報うち狂犬病に関するもの37報、取得特許等知財 10件</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Lateral flow devices for samples collected by straw sampling method for postmortem canine rabies diagnosis. <i>PLoS Negl Trop Dis</i>. 2021 Dec 9;15(12):e0009891. doi: 10.1371/journal.pntd.0009891. eCollection 2021 2. Validation of serum apolipoprotein A1 in rabies virus-infected mice as a biomarker for the preclinical diagnosis of rabies. <i>Microbiol Immunol</i>. 2021 Jul 16. doi: 10.1111/1348-0421.12929. 3. Reevaluation of the efficacy of favipiravir against rabies virus using in vivo imaging analysis. <i>Antiviral Res</i>. 2019 Dec;172:104641. doi:c Epub 2019 Oct 28. 4. Efficacy of favipiravir (T-705) in rabies post-exposure prophylaxis. <i>J Infect Dis</i>. 2016 Apr 15; 213(8): 1253-1261. 5. Evaluation of an improved rapid neutralizing antibody detection test (RAPINA) for qualitative and semiquantitative detection of rabies neutralizing antibody in humans and dogs. <i>Vaccine</i>. 2012 30: 3891-3896. 	